

平成 23 年度新潟県小学校教育研究会 三条市（社会科）活動報告

◇平成 23 年 5 月 13 日に開催された市の小学校教育研究会総会後の教科部会において、今年度の活動計画を立てた。（平成 23 年度の社会科部員 29 名）

◇三条市小学校教育研究会の一斉研修日（年間 2 回）に、次の活動を実施した。

1 地域研修「工場見学及び講演会」の実施 〈平成 23 年 6 月 22 日〉

(1) 見学工場：株式会社スノーピーク

(2) 講演講師：株式会社スノーピーク 代表取締役社長 山井 太 様

(3) 研修内容

①工場見学：株式会社スノーピークは、今春、下田の広大な地にキャンプ場を併設した新社屋が完成した。その新社屋の見学であったが、建物自体が斬新なデザインであり、また、社員の意識改革を図る業務形態を見学する。学校現場との違いに衝撃を受ける。

②講演会：山井太社長の生い立ちや会社設立時のこと、会社の成長の様子等についての内容をお話頂いた。社長のシンプルで揺るぎない経営理念に学ぶことが多かった。教育現場の在り方や一職業人としての生き方について、考え直すことが出来た有意義な研修になった。

2 授業研修「6年歴史『明治維新で変わる人々の暮らし』」の実施 〈平成 23 年 9 月 28 日〉

(1) 本 時：「明治維新と学校の設立」（4 / 7 時間）

(2) 授業者：一ノ木戸小学校 小林 靖裕 教諭

(3) 研修内容

①授業公開：ねらいを「一ノ木戸小学校開学当初の児童数の少なさに着目し、明治政府の考えがすぐに受け入れられたわけでないことを理解し、明治政府の改革は徐々に進んでいったことに気付く」として、明治政府の行った改革である学制を取り上げた公開授業が行われた。

②協議会：単元構成や子どもにとらえ、資料提示等についての話し合いが持たれ、子どもの学びや指導力向上につながる深まった協議ができた。

〈主な協議内容の要約〉

○資料・・・一ノ木戸小学校開学当初の就学率と児童数の違いのグラフ提示をしたのは？小学校を作った意図を考えたり、児童数が当初、増えなかったり理由を考えさせたかった。

・ ・ 諸改革の資料の取り上げ方やつなげ方は？改革に対する反発や痛みも押さえない。

・ ・ 庶民の立場からの授業作りだが政府の立場からも考えさせる必要があったのでは？次時に別の切り口から、明治政府の改革について見ていく。

○板書・・・自分の予想が正しいかどうか、新しく知ったことや手立てを分かり易く板書する。

○ノート指導・・・ノート指導が良かった。根拠を含めた考えを書いていた。終末の振り返りの中身を分かったことと考えたことの 2 部構成で書かせている。一方で、まとめの感想から次時に、どうつながるのかという意見も出た。

◇授業者は新採用 3 年目であるが、深い教材研究と優れた学級経営あり、児童の多様な考えを引き出し、その発言の交通整理と絞り込み等、力量のある授業が公開された。